

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	after-school programるくーる		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17件	(回答者数) 13件
○従業者評価実施期間	年 月 日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスが一体となって運営しているため、子ども一人ひとりに対して長期的なライフサイクルで支援することが出来る。	特に小学校への進学時、園から小学校とデイサービスの利用と児童にとって大きな変化が起きる。 この時期に児童発達支援から放課後等デイサービスにステージは変わるが職員や環境の変化が少ない分、児童のメンタルケアで大きなサポートができる。	定期的に特別プログラムを開催している。 今後も職員や保護者の意見を聞きながら、様々な分野の人達に協力してもらうことを考えている。

2	経験豊富な有資格者を実務配置している。	様々な資格や経験を有している職員を配置することにより、支援の質を日々充実出来るようにしている。	更に専門的な知識、経験を持った職員や特別講師の起用を検討し充実したプログラム内容を企画中。
3	清潔で広いプレイルーム、児童一人一人のニーズにマッチした教材と整った学習スペース。	プレイルームは消毒しやすい床材を使用している為、毎日アルコール消毒による除菌を実施。 教材はプリントだけでなく、タブレットや玉そろばん等児童の「理解しやすいもの」を常に提供できるよう配置している。	今後も情報収集に努め、合理的配慮に有効な教材を取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用ニーズが高いが利用可能人数(枠)が少なくお断りする機会が多い。	マンツーマン支援を基本としている為、一度に多くの児童の支援が不可能である。 利用可能枠が少なく新規利用希望者のニーズに応えることが出来なくなってきている。	多機能型施設であること。 利用可能定員が1日10名であることから現状の改善は不可能である。 施設の増設は現時点では検討できていない。
2	ペアレントトレーニング、保護者会の開催がなされていない。	土曜も支援を行っている為、保護者様をお招きして開催することがスペース的に困難である。	関連企業の協賛を得て、別スペースで近日中に開催を検討中

3			
---	--	--	--